



# Sagor för barn på svenska

[berattelser.se](https://berattelser.se)

カバに毛かない訳

Skreven av: Basilio Gimo, David Ker  
Illustrerad av: Carol Liddiment  
Översatt av: Sayuri Hayashi

Denna saga kommer från African Storybook ([africanstorybook.org](https://africanstorybook.org)) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (<https://berattelser.se/>), som erbjuder sagor på många språk som talas i Sverige.

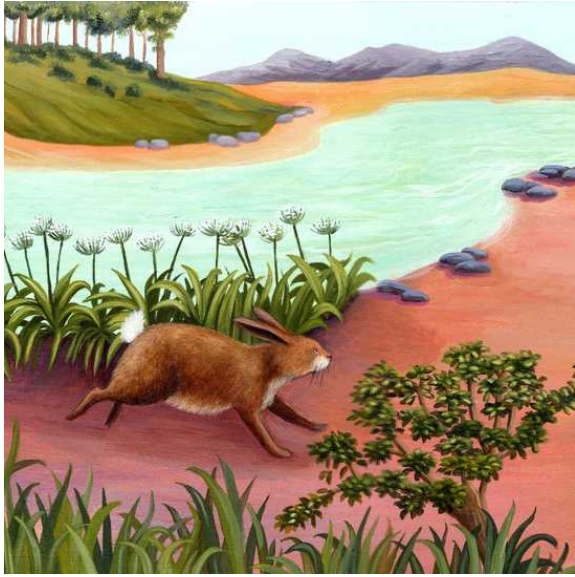
Detta verk är licensierat under en Creative Commons Erkännande 3.0 Internasjonal Lisens.  
<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv>

カバに毛かない訳



✎ Basilio Gimo, David Ker  
👤 Carol Liddiment  
📧 Sayuri Hayashi  
💬 japanska  
📊 nivå 2





ある日、うさぎが川のほとりを歩いて  
いました。

カバもそこで散歩をしながら、すてきな緑の草を食べていました。





カバは、うさぎがそこにいるとは知らず、あやまってうさぎの足を踏んでしまいました。うさぎはカバを見つめてそして叫びました。「おいカバ、わたしの足を踏んでいるのが分からないのか？」



うさぎは、カバの毛が燃やされて、嬉しくなりました。そして、カバはこの日を機に火を恐れて、水から離れたところには二度と行かなくなりました。

カバは泣き出し、水を求めて走りま  
した。カバの毛は全部火によって燃やさ  
れてなくなりました。カバは泣き続け  
ました。「わたしの毛が火で燃えた！  
わたしの毛はすっかりなくなっちゃっ  
た。わたしの美しい毛が！」



カバは、うさぎに謝りました。「ごめ  
んよ。見えなかったんだ。どうか許し  
てよ」けれどもうさぎは聞き入れず、  
カバに向かって叫びました。「わざと  
やっただろ！今に分かるさ。ただじゃ  
すまないぞ！」





うさぎは火を探しに行き、こう言いました。「行け! 草を食べるために水から出てきた時、カバを燃やしてしまえ。やつは、わたしの足を踏んだんだ!」火は「お安い御用です。友達のうさぎさん。お望み通りにやりますよ」と答えました。



その後、カバが川から遠く離れた場所で、草を食べていると「ビュン!」火がつき炎が上がりました。炎はカバの毛を燃やし始めました。